

に対する正解率は、64.7%（男 70.7%、女 58.9%）で、誤回答もしくは「わからない」という回答をした者は、26.7%であった。また、ピルがSTDの予防になるかどうかという質問に対する正解率は、63.2%（男 68.9%、女 57.7%）で、誤回答もしくは「わからない」という回答をした者は、27.7%であり、女性の方が正解率が低いという予期せぬ結果となった。年齢層別にみると、男女とも、25-54歳の間が正解率が高いという“山型”の分布をしており、どの年齢層でも男>女であった。

ピル使用の意思とコンドーム使用：ピル使用の意向に関する質問では、積極的に使用の意思を表明したのは、8.8%であったが、男性が12.9%、女性が4.8%と男の方がむしろ大きいという結果になった。また、その際のコンドームの使用についての質問に対して、ピル使用希望者（n=314）の39.8%がコンドーム使用を減らすと回答し、その傾向はやはり男性の方で大きかった（男43.0% vs. 女31.4%）。

一番最近の性交時におけるコンドーム使用者の使用理由（表19）：ほとんど全員が避妊を使用目的にあげたが、STDやエイズ予防を目的にあげた者は、男性で15-16%、女性で5-6%で、女性の方でHIV/STD予防意識が低い可能性が示唆される。年代別では、世代が若いほどHIV/STD予防目的をあげる者が増える傾向にある。

◆性意識・性モラル

未婚男女のセックス（表20、21）：未婚の男女のセックスについては、世代が若いほど認容度が高く、18-24歳の世代では、約80-90%が認容している。男女差を見ると、35歳以上の群では、男女間に、10-20%近くの差が存在するのに対し、18-24歳、25-34歳の世代では、男女ほぼ等しくなっており、女性で変化が大きい様子が伺える。また、未婚男性に対する認容度を未婚女性の場合と比較すると、男女いずれにおいても、未婚女性のセックスに対する認容度が低い傾向がある。

既婚男女の婚外セックス（表22、23）：結婚している男女の婚外セックスについても、世代が若いほど認容化する傾向があるが、未婚男女の場合ほど顕著ではなく、また認容度は、男性で最大10数%、女性で<5%と一般に低い。男女差は顕著で、世代に関わらず男>女で、男女間

に2-3倍の開きが存在する。認容度のピークが男性の方が高齢の世代にあるが、これは、男性の方で、認容化が先行したということであろう。また、既婚男性の婚外セックスに対する認容度を既婚女性の場合と比較すると、未婚者のセックスの場合と同様、男女いずれにおいても、既婚女性のセックスに対する認容度が低い（見方が厳しい）傾向がある。

恋人のいる男女の恋人以外とのセックス（表24、25）：恋人のいる男女の恋人以外とのセックス（以下、“関係外セックス”という）については、男女とも25-34歳にピークが見られる。認容度は、男性で最大16-18%、女性で6-7%と、全般に高くない。男女差は顕著で、世代に関わらず男>女で、男女間に2-4倍の開きが存在する。また、恋人のいる男性の関係外セックスに対する認容度を女性の場合と比較すると、男性では、女性の関係外セックスにより厳しい傾向があるが、女性では、特に認容度に男女差は見られなかった。

同性同士のセックス（表26、27）：若い世代ほど、同性同士のセックスに認容な傾向があるが、特に女性でその傾向が顕著であり、18-24歳では30%近くの女性が、認容している。男性では、35-44歳で上昇したが、それより若い世代ではほぼ頭打ちの状態である。男性は、男性の同性間セックスよりも女性の同性間セックスに対する認容度が高いが、女性では男女の同性間セックスに対する認容度に差が見られない。

金銭の授受を介するセックス（表28、29）：金銭の授受を介するセックスについては、男性では、25-34歳にピークがあり、お金を払うセックスを、28.7%が、お金を貰うセックスを22%が認容している。女性は、男性に比べると2-10倍低いですが、若い世代で増加傾向にあり、男女差が縮小している。

◆国際比較

表30に、比較可能な項目の一部を日本と欧米で比較した。調査時期や調査方法の違いなどがあり、比較には限界があるが、過去1年間に5人以上のパートナーがいた人の割合は、男性では欧米と差がなく、女性ではやや低い傾向にある。性交頻度は極めて大きな違いがあり、週2回以上セックスをした人の人数は、欧米で30-50%の範囲であるのに対し、わが国では10%程度でしかない。また、同性とのセックス

の経験率もわが国で数倍低い。しかし、男性の買春経験率は逆にわが国で飛び抜けており、多くの欧米諸国が数%であるのに対し、わが国は14%にも及んでいる。

考察

これまでの性行動調査について

これまでわが国で行われた大規模な性行動調査は、雑誌モアによる読者調査（1980年、1981年）、宗像らによる2回の全国5大都市住民の調査（1991年、1994年）、財団法人性教育協会が1974年以来6年置きに実施している全国12都市の高校生、大学生の調査、東京都の幼・小・中・高性教育研究会が1981年以来3年置きに実施している性意識・性行動調査がある。また、限られた項目（初交年齢、性交経験率）ではあるが、毎日新聞の全国家族計画世論調査の一環として、未婚女性を対象とした調査が1990-1998年にかけて、4回実施されている。それぞれ、その時点時点で重要な情報を提供した調査ではあるが、モアの調査は母集団の特性・回収率が不明であり、宗像らの調査は郵送法で行われたが、回収率が1991年31.3%、1994年19.7%と極めて低率である。財団法人性教育協会、東京都の幼・小・中・高性教育研究会、毎日新聞の調査は、それぞれ定期的に実施され、回収率も高く、変化を追及できる点で意義深い研究であるが、いずれも特定の集団であるため、日本人全体の性行動を知るには情報に限界がある。

一方、国際的には、1980年代の終わりから1990年代の初期にかけて、欧米エイズ流行を契機として、近年様々な国で確率サンプルを用いた全国レベルでの性行動調査が実施されている。最も有名なものは、イギリス（1990年）、フランス（1991-92年）、米国（1992年）における調査で、多くの関連文献が出版されている。

回収率について

回収率は、71.2%で、確率サンプルを用いた性行動調査としては、わが国で最も高い回収率を得ることができた。国際的に見ても、アメリカの調査が80%、フランスの調査が66%、イギリスの調査が65%であるため、国際水準の回収率を確保できたということが出来る。回収ができなかった理由の中では、拒否と不在で接触

できなかったケースがそれぞれ約半数を占める。これらによるバイアスの可能性については、慎重な検討が必要であるが、回収されたサンプルの年齢・性別構成は母集団比と大きな差は見られない。一方、本調査では、多くの性に関する質問に、高年齢層、それも特に女性で「無回答」が増加する現象が見られるが、この無回答が研究結果にどのようなバイアスをもたらす可能性があるかについて、次年度慎重に検討する予定である。

HIV/STD 関連知識について

従来、差別偏見を無くすために重点的にキャンペーンされてきた、日常生活における感染の可能性、たとえば食器、プール、トイレ、握手などについては約75%の人が正解しており、まだ完全とはいえぬまでも、かなり知識が普及している。これは、差別偏見の防止に重点を置いてきたこれまでのキャンペーンや学校教育でのとり組みの成果といえるものであろう。しかし、国民の知識には重大な欠落があり、特にSTDの種類・感染の仕方・症状の有無に関する知識、STDとHIVの相互作用、適切な検査の時期、検査のできる場所に関する質問の正解率は総じて低率である（14%-45%）。また、治療の進歩に関する情報も30%にしか普及していない。つまり、自らをHIV/STDの感染から守ったり、自らの感染の有無を知るための知識や新しい知識が国民にほとんど普及していないことが示唆され、今後の普及啓発ではこの点が特に留意されなければならない。

性行動について

性行動については、様々な興味深い事実が明らかになった。特に注目されるのは、若者、とりわけ若い女性における変化であり、従来男性に比して抑制されていた傾向にあるものが、急速に変化が進み、ほとんど男性に追いつくほどの変化が生じている。若い女性における性行動に活発化については、性教育協会の経年的調査の中でも捉えられている。

若者における性行動の変化は、その低年齢化にあり、その反映として、例えば初交が学校で出会う相手が主となったこと、初交の相手が同年位が主となりつつあることなどの変化が生じており、その結果、セックスは近年になって一気にカジュアル化する傾向が進んだように

思われる。そのことは、若者で、不定期の相手を持つ人や複数のパートナーを持つ人の割合が高いこと、同時に複数の相手と性関係の割合が高いことから推察される。同時に、性行為の内容も多様化しており、若者の間では、フェラチオ、クニニリングスがほぼ日常化している。

コンドーム使用について

コンドーム使用は、年齢が若いほど高率であり、性行動の活発なこの世代で使用率が高いことは、HIV/STD 感染予防の観点からは望ましい。しかし、金銭の授受を介したセックスの場合以外は、不使用者が半数近くに上っており、セックスがカジュアル化しつつあるにもかかわらず、全体に無防備なセックスに対するリスク認識が希薄であることが示唆される。また、フェラチオ時にはほとんどコンドームは使用されていないが、STD が流行を始め、また、いわば口が性器化して、STD 感染の重要なルートとなっていることが指摘されている今日、フェラチオに関してもコンドーム使用が推奨されなければならないと思われる。また、コンドーム使用の目的として、避妊をあげる者は、95%近く上るのに対し、HIV/STD 予防をあげる者は男性で 15-16%、女性で 5-6%程度に過ぎない。なお、ここで留意しておきたいのは、女性の方で HIV/STD 予防目的の使用が低いことである。これに関して、HIV 関連知識でも STD に関する知識が女性で低いことが本調査で確認されており（データは示していない）、この点は HIV/STD 予防に関する今後の啓発プログラムで留意される必要がある。

感染不安と検査行動について

過去 1 年間に感染不安のあった人は全体で 4%で、その内検査を受けた人は約 1/6 という結果が得られた。これは、感染不安があっても、多くの人が検査を受けないでいることを意味するが、HIV 感染流行防止の観点からは望ましいとはいえ、検査を受けやすくする環境作りが急務であるといえる。一方、この受検率が、感染している人と、していない人で等しいとすると、HIV 感染者で、検査で判明する率は 1/6 ということになる。橋本らの推計予測研究では、AIDS 患者と HIV 感染者のリンクージュから、HIV 感染者の捕捉率を 1/5.3 としているが、本研究で得られた数値はそれと矛盾しない範囲

のものであり、橋本らの捕捉率の妥当性を支持するデータである可能性がある。

性意識・性モラルについて

性意識・性モラルにも、年代間で大きな違いが見られるものが多い。例えば、未婚者のセックスについては、急速に認容化が進み、若い世代では男女とも 80-90%で認容されており、結婚を前提としてきた従来の性規範がほぼ崩壊したことが伺える。しかし、婚外交渉については依然強い規範意識が維持されており、男性は 10 数%、女性では 5%未満にとどまっている。程度の差はあれ、恋人がいる人が恋人以外と性交渉を持つことについてもほぼ同様である。興味深いのは、規範意識が女性でかなり強いことであり、メディアで報道されるような乱れた性生活が若い女性の間で日常化しつつあるかのような状況は実際には生じていないことが示唆される。それは、性行動の成績からも示唆される。Sex in America（米国での性行動調査）でも指摘されたことであるが、性ビジネスを促進するために、メディア（雑誌、新聞、テレビ）によって、一部が誇張され幻想が演出されているに過ぎないということであろう。女性における規範意識の強さは、売買春に対する意識にも現れており、若い女性で認容傾向が少し高まっているものの、認容度は男性よりも相当低い。

特に興味深いのは、同性間のセックスに関する認容が女性において急速に進んでいることである。男性では、35-44 歳あたりから頭打ちになっているのに対し、女性では“指数関数的”に認容が進んでいる。この男女間格差の理由は不明であるが、性にまつわる不合理な規範から、女性が急速に開放されつつあるというポジティブな変化を反映する可能性もある。この点は、他の社会現象との関連を含めて、今後、社会的、社会心理学的考察を深めていきたい。

男性については、規範意識がもっとも低いのは、25-34 歳の世代である。この解釈は容易ではないが、これは、年代とともに規範意識が薄れていくという“時代効果”と、25-34 歳で社会生活に入るために、仲間や同僚の影響で、規範意識が崩れるという“年齢効果”がミックスされたものである可能性がある。

国際的にみた日本人の性行動

性行動調査の国際比較は容易ではない。なぜ

なら、調査方法や調査された時期、集められた情報の内容などが、調査によってバラバラだからであり、調査結果がこれらのファクターによって大きな影響を受ける可能性があるからである。従って、正確な比較は困難であるが、それを敢えて比較してみると、日本人の性行動は欧米とはかなり異なっている可能性が示唆される。それは特に、性行為の回数と売買春を行う人の割合に顕著である。HIV 流行との関連でいえば、売買春の問題は重要であり、わが国は、この点に関して欧米よりもかなり高頻度であることがわかる。先進国とはいえ、わが国には、アジアの一国としての伝統もなお生きているということであろう。この点については、わが国の HIV 予防対策を考える上で重要であると思われる。

結論

以上、全国性行動調査の結果を一部分析し、わが国の HIV/STD 関連知識、性行動、性意識などを国際比較を含め明らかにした。今年度は、単純分析の範囲にとどめたが、それでも日本人の性行動に、最近になって、重要な変化、それも今後の HIV/STD の拡大を強く危惧させる変化が生じたことが示唆される結果となった。今後は、多変量解析を含めて、さらに詳細な分析を実施するとともに、結果の意味について、社会的及び社会心理学的考察を深める予定である。また、わが国の性行動が、欧米と大きく異なる可能性があることを示唆する重要な知見を得たが、正確に特徴を論じるためには、共通の質問票を用いた国際共同研究なども将来視野にいれる必要があるだろう。

なお、本調査の後（1999年11月）に、NHKによって、「性に関する実態調査」が行われた。本研究班のメンバーも一部その立案過程に参加し、調査票、予備分析結果等を提供し、本研究班の結果と比較可能なように、質問項目にも一部共通のものが盛り込まれた。本研究班の調査の眼目が、HIV/STD 関連知識や性行動、検査行動、コンドーム使用など HIV/STD 予防対策の立案に直接必要な情報を量的に把握することに重点があったのに対し、NHKの調査は自慰行為、セックスレス、満足感なども含む現代の性の有りようを捉えるための質問に重点が置かれるなど、調査の視点そのものに違いが

あるが、これは、むしろ、日本人の性の状況を捉える上での多角的視点を与えるものとして歓迎されることと言えよう。これらの調査結果が、日本人の性がより総合的に議論される契機となることを期待したい。

文献

- 1.財団法人日本性教育協会編. 青少年の性行動—わが国の高校生・大学生に関する調査報告. 小学館、東京、1975年.
- 2.財団法人日本性教育協会編. 青少年の性行動—わが国の高校生・大学生に関する調査報告(第2回). 小学館、東京、1983年.
- 3.財団法人日本性教育協会編. 青少年の性行動—わが国の中学生・高校生・大学生に関する調査報告(第3回). 小学館、東京、1988年.
- 4.財団法人日本性教育協会編. 青少年の性行動—わが国の中学生、高校生・大学生に関する調査報告(第4回). 財団法人日本性教育協会、東京、1994年.
- 5.東京毎日新聞人口問題調査会編. 「家族」の未来“ジェンダー”を超えて—毎日新聞社・第24回全国家族計画世論調査. 毎日新聞人口問題調査会、東京、1998年.
- 6.東京都幼・小・中・高性教育研究会. 1993年調査児童・生徒の性—東京都小・中・高校生の性意識・性行動に関する調査報告. 学校図書、東京、1993年.
7. Sexual behavior and HIV/AIDS in Europe. (Eds. M. Hubert, N. Bajos, T. Sandfort), UCL Press, 1998.
8. 「エイズパンデミック」. 山崎修道、木原正博監訳、日本学会事務センター、1998年10月発行(原題: AIDS in the World II. J. Mann, D. Tarantola 編)
9. E. O. Laumann et al. The Social organization of sexuality—sexual practices in the United States. The University of Chicago Press, Chicago and London, 1994.
10. A. M. Johnson et al. Sexual attitudes and lifestyle. Blackwell Scientific Publications, London, 1994.

研究発表

1. 広瀬弘忠他. 日本人の性行動・性意識に関する予備的研究. 第12回日本エイズ学会、東京、1998年12月
2. Uchino H. et al. HIV&SEX in JAPAN Survey -Part 1: Current condom use during vaginal intercourse and its implications for HIV prevention in Japan. XIII International AIDS Conference, July 9-14, Durban, 2000
3. Ono-Kihara M. et al. HIV&SEX in JAPAN Survey -Part 2: Knowledge of and attitudes toward contraceptive pill use in Japan. XIII International AIDS Conference, July 9-14, Durban, 2000 (submitted)
4. Kihara M. et al. HIV & SEX in JAPAN Survey -Part 3: Paid sex in Japan. XIII International AIDS Conference, July 9-14, Durban, 2000 (submitted)

表1. 回収率と回収不能の理由

性別	年齢	標本数	回収数	回収率	不能 数	転居	長期 不在	院・ 入所	一時 不在	住所 不明	拒否	気・ ケガ	死亡	その 他
男性	18-19	83	56	67.5%	27	11	4	0	4	0	7	0	0	1
	20-29	531	323	60.8%	208	60	15	2	52	3	71	4	0	1
	30-39	553	382	69.1%	171	31	17	1	33	2	81	2	0	4
	40-49	683	481	70.4%	202	24	16	1	32	6	114	3	1	5
	50-59	709	520	73.3%	189	25	17	8	32	6	90	8	1	2
小計	2559	1762	68.9%	797	151	69	12	153	17	363	17	2	13	
女性	18-19	82	53	64.6%	29	9	3	0	6	1	9	0	0	1
	20-29	521	343	65.8%	178	40	14	0	31	2	86	0	1	4
	30-39	587	432	73.6%	155	17	11	0	18	3	99	4	0	3
	40-49	566	442	78.1%	124	7	5	2	16	2	85	5	0	2
	50-59	685	530	77.4%	155	10	5	1	15	2	107	10	1	4
小計	2441	1800	73.7%	641	83	38	3	86	10	386	19	2	14	
合計	5000	3562	71.2%	1438	234	107	15	239	27	749	36	4	27	
				100%	16.3%	7.4%	1.0%	16.6%	1.9%	52.1%	2.5%	0.3%	1.9%	

表2. HIV/STD関連知識の正解者率

質問項目 (T=真、F=偽)	非正解		無回答 (%)
	正解者 者* (%)	(%)	
(1) 最近、わが国のHIV感染者数は増加している (T)	77.7	18.0	4.3
(2) 最近、わが国のHIVの感染経路は性行為によるものが最も多い (T)	58.6	37.1	4.4
(3) 治療薬の進歩で、HIVに感染してから発病するまでの期間を遅らせられるようになった (T)	30.9	64.1	4.9
(4) 治療薬の進歩で、エイズを完全に治すことができるようになった (F)	69.0	25.8	5.2
(5) HIV感染者が使用した食器を共用すると、HIVに感染する可能性がある (F)	74.3	20.8	4.9
(6) HIV感染者と一緒にプールや風呂に入ると、HIVに感染する可能性がある (F)	76.7	18.8	4.5
(7) HIV感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIVに感染する可能性がある (F)	33.8	61.3	5.0
(8) HIV感染者が使用したトイレを使うと、HIVに感染する可能性がある (F)	77.4	17.6	5.0
(9) HIVに感染している妊婦から赤ちゃんにHIVカ感染する可能性がある (T)	81.4	13.4	5.1
(10) 淋病は、性行為で感染する (T)	76.3	18.9	4.7
(11) 梅毒は、性行為で感染する (T)	77.0	18.2	4.8
(12) クラミジアは、性行為で感染する (T)	45.5	49.3	5.2
(13) ヘルペスは、性行為で感染する (T)	26.4	68.1	5.5
(14) 口を使ったセックスで、口から性器に性感染症(性病)が感染する可能性がある (T)	40.2	55.2	4.6
(15) 口を使ったセックスで、性器から口に性感染症(性病)が感染する可能性がある (T)	45.8	49.1	5.1
(16) 性感染症(性病)にかかっていると、HIVに感染しやすい (T)	14.3	80.0	5.6
(17) 健康に見えても、HIVに感染していることがある (T)	78.1	16.4	5.6
(18) 性感染症(性病)の原因となる病原体に感染すると必ず症状がでる (F)	36.7	57.5	5.8
(19) 通常のエイズ検査では、感染後数日たてば感染しているかどうかわかる (F)	31.5	63.7	4.8
(20) 保健所では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる (T)	45.8	49.7	4.4

*非正解者=誤回答+「わからない」

HIVは実際のアンケートでは「エイズウイルス」と表現した。

表3. 初交年齢の変化

性別	年齢層	人数	10歳未満	10-12歳	13-15歳	16-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
男	18-24歳	131	0.0	0.8	18.4	79.4	100.0	100.0	100.0	100.0
	25-34歳	290	0.0	0.0	6.2	61.4	93.8	99.3	100.0	100.0
	35-44歳	378	0.0	0.0	3.7	52.9	89.9	97.4	99.2	100.0
	45-54歳	471	0.0	0.0	1.7	43.7	85.6	98.3	99.8	100.0
	55歳以上	216	0.0	0.0	0.9	29.6	70.0	95.4	99.6	100.0
女	18-24歳	120	0.0	0.0	13.3	79.2	100.0	100.0	100.0	100.0
	25-34歳	341	0.0	0.0	4.6	51.6	93.3	99.5	100.0	100.0
	35-44歳	365	0.0	0.0	0.6	36.7	85.3	98.4	99.8	100.0
	45-54歳	468	0.0	0.0	0.0	16.2	82.3	97.6	99.6	100.0
	55歳以上	243	0.0	0.0	0.4	10.7	77.8	97.1	99.6	100.0

図1.初交年齢の変化(表3より)

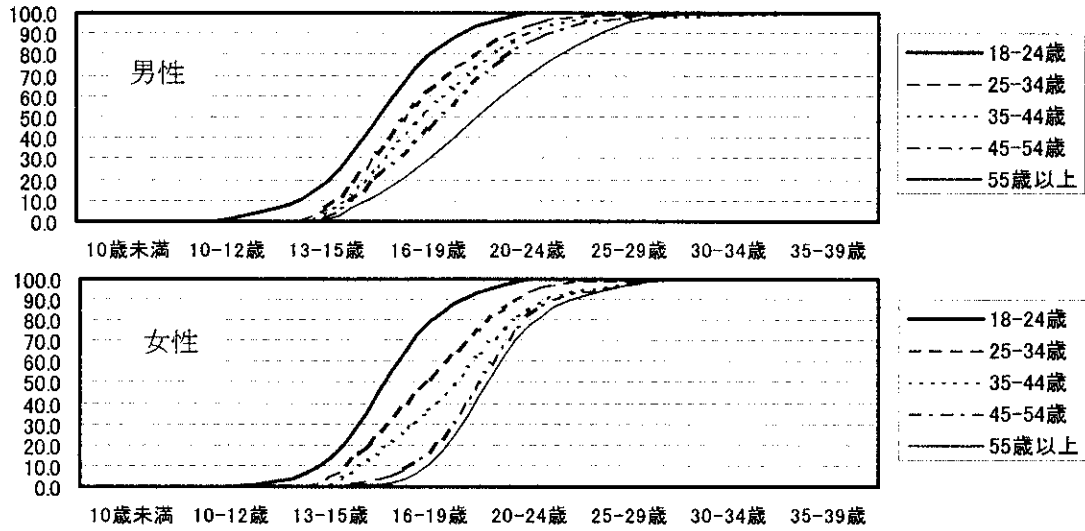


表4.初交相手との関係

		配偶者/婚約者	恋人/友人	貴春	その他	無回答
男	18-24歳	1.4	85.5	3.4	8.3	1.4
	25-34歳	6.5	74.3	9.9	7.8	1.5
	35-44歳	10.4	61.4	18.6	9.1	0.5
	45-54歳	18.3	43.5	22.8	13.5	1.9
	55歳以上	35.5	27.3	23.1	13.3	0.8
女	18-24歳	3.1	87.8	0.0	8.3	0.8
	25-34歳	14.7	77.0	0.0	6.7	1.6
	35-44歳	40.2	54.9	0.0	3.9	1.0
	45-54歳	66.5	28.5	0.0	2.8	2.2
	55歳以上	82.9	13.6	0.0	1.9	1.6

図2.初交相手との関係(表4より)

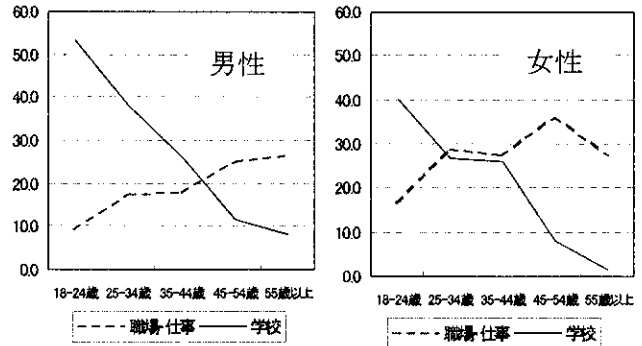


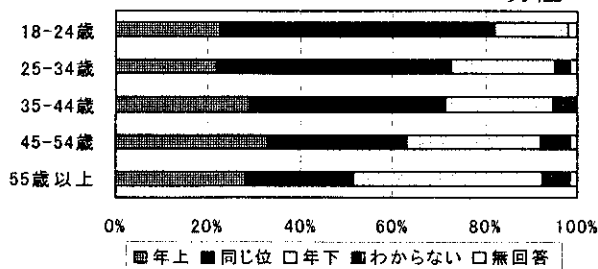
表5.初交相手との出会い

		職場・仕事	学校
男	18-24歳	9.5	53.1
	25-34歳	17.7	38.1
	35-44歳	17.9	26.1
	45-54歳	25.0	11.8
	55歳以上	26.8	8.3
女	18-24歳	16.6	40.2
	25-34歳	29.0	26.6
	35-44歳	27.6	26.1
	45-54歳	36.3	8.2
	55歳以上	27.3	1.6

表6.初交相手の年齢

	人数	年上	同じ位	年下	わからない	無回答	
男(n=1651)	18-24歳	145	22.8	59.3	15.9	0.0	2.1
	25-34歳	323	21.7	50.8	22.9	3.1	1.5
	35-44歳	414	29.0	42.5	23.4	4.8	0.2
	45-54歳	527	32.8	30.2	28.8	6.6	1.5
	55歳以上	242	28.1	23.6	40.9	5.8	1.7
女(n=1670)	18-24歳	132	52.3	40.9	5.3	0.8	0.8
	25-34歳	368	56.0	34.8	5.7	1.9	1.6
	35-44歳	410	65.6	27.3	4.4	0.7	2.0
	45-54歳	503	77.1	16.1	4.4	1.2	1.2
	55歳以上	257	83.3	11.7	3.1	0.4	1.6

図3.初交相手の年齢(表6より) 男性



女性

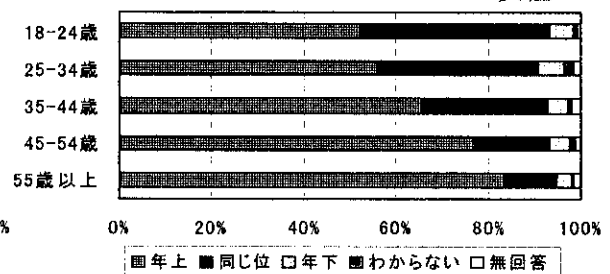


表7. 初交の膈性交時のコンドーム使用率
(膈性交ありと回答した者のみ)

	n	使用した		
		使った	なかった	無回答
男				
18-24歳	125	66.1	33.9	0.0
25-34歳	296	67.6	32.1	0.3
35-44歳	375	49.0	50.7	0.2
45-54歳	473	49.2	49.4	1.2
55歳以上	214	39.3	57.5	3.3
女				
18-24歳	111	69.3	30.7	0.0
25-34歳	318	60.6	37.4	1.9
35-44歳	338	47.7	49.4	2.9
45-54歳	395	38.0	59.2	2.8
55歳以上	205	22.4	73.7	3.9

図4. 初交時のコンドーム使用率 (表7より)

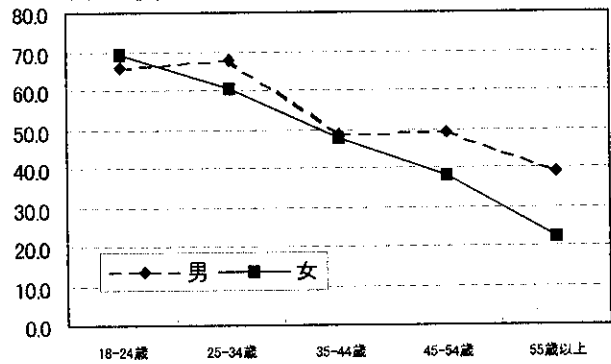


表8. 過去1年間のパートナーの種類

	n	金銭の授受を介した		
		決まった相手 (無回答)	不定期の相手 (無回答)	相手 (無回答)
男				
18-24歳	127	80.3 (0.0)	30.7 (0.8)	15.7 (0.8)
25-34歳	269	88.8 (1.1)	15.6 (3.0)	18.6 (1.5)
35-44歳	374	92.2 (0.5)	6.1 (1.3)	13.1 (1.1)
45-54歳	451	94.0 (0.4)	7.5 (3.3)	6.7 (4.0)
55歳以上	189	93.7 (1.1)	6.3 (4.2)	2.1 (6.3)
小計	1410	91.3 (0.6)	10.6 (2.6)	10.9 (2.8)
女				
18-24歳	109	93.6 (0.0)	23.9 (0.9)	2.8 (1.8)
25-34歳	325	98.8 (0.3)	3.1 (1.8)	0.3 (1.8)
35-44歳	351	99.1 (0.3)	0.9 (4.8)	0.0 (3.7)
45-54歳	364	99.2 (0.5)	1.6 (8.0)	0.0 (8.2)
55歳以上	149	96.0 (1.3)	0.7 (13.4)	0.7 (13.4)
小計	1298	98.2 0.5	3.5 5.6	0.4 5.5

表9. 過去一年間の性的パートナーの人数

	該当者数	人数					無回答
		1人	2人	3人	4人	5人以上	
男							
18-24歳	127	48.8	16.5	15.0	7.1	9.5	3.1
25-34歳	269	69.9	7.4	7.8	5.2	7.5	2.2
35-44歳	374	80.5	11.0	4.5	1.1	2.4	0.5
45-54歳	451	81.2	8.2	4.4	1.6	2.6	2.0
55歳以上	189	88.9	3.7	3.2	1.6	0.5	2.1
小計	1,410	77.0	8.9	5.9	2.6	3.8	1.8
女							
18-24歳	109	64.2	16.5	7.3	6.4	5.6	0.0
25-34歳	325	89.2	7.4	1.5	0.6	0.1	1.2
35-44歳	351	95.7	2.0	1.1	0.0	0.3	0.9
45-54歳	364	96.2	1.9	0.0	0.0	0.5	1.4
55歳以上	149	93.3	1.3	1.3	0.0	0.1	4.0
小計	1,298	91.3	4.5	1.5	0.7	0.6	1.4

図5. 過去1年間の性的パートナーの人数 (表9より)

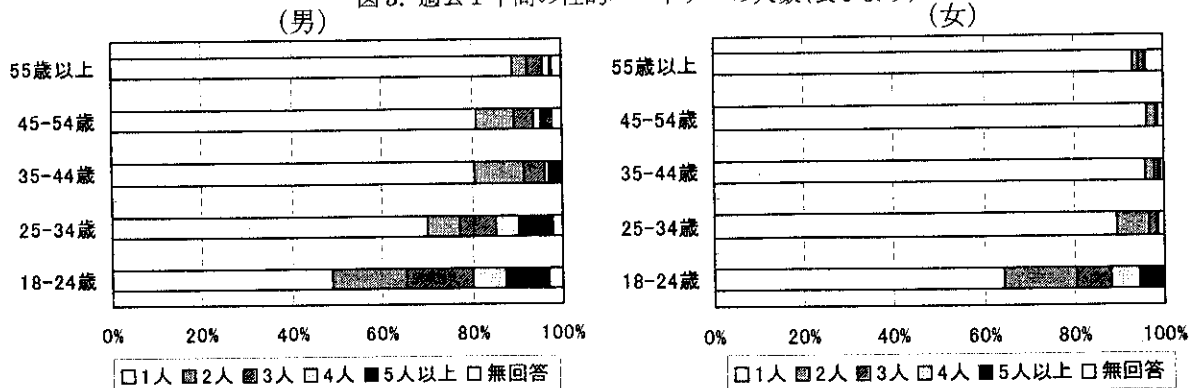


表10. 過去1年間に複数の相手と同時に性関係にあった人の割合

	該当者数	同時に複数との性関係			
		あり	なし	無回答	
男	18-24歳	127	26.0	73.2	0.8
	25-34歳	269	21.9	77.0	1.1
	35-44歳	374	17.9	82.1	0.0
	45-54歳	451	16.2	82.9	0.9
	55歳以上	189	15.3	83.6	1.1
	小計	1,410	18.5	80.8	0.7
女	18-24歳	109	16.5	83.5	0.0
	25-34歳	325	8.9	90.5	0.6
	35-44歳	351	5.1	94.3	0.6
	45-54歳	364	7.1	91.5	1.4
	55歳以上	149	8.7	85.9	5.4
	小計	1,298	8.0	90.7	1.3

表11. 過去1年間の性交頻度

	n	月1回未満	月1回程度	月2-3回	週1回程度	週2-3回	週4回以上	
男	18-24歳	127	19.6	14.2	18.9	18.1	24.4	3.2
	25-34歳	269	18.2	16.7	29.0	24.2	10.4	0.4
	35-44歳	374	24.9	18.4	34.2	14.7	7.2	0.0
	45-54歳	451	22.0	21.3	33.0	18.2	3.8	0.6
	55歳以上	189	24.4	19.0	34.9	15.3	3.2	1.0
	小計	1410	22.1	18.7	31.6	18.0	7.7	0.8
女	18-24歳	109	15.5	11.9	28.4	25.7	17.4	0.9
	25-34歳	325	21.9	15.1	29.8	22.2	8.6	0.6
	35-44歳	351	20.3	16.2	32.8	21.7	6.8	0.9
	45-54歳	364	29.6	19.2	30.5	14.3	3.0	0.6
	55歳以上	149	31.5	24.2	26.2	13.4	2.0	0.0
	小計	1298	24.2	17.3	30.3	19.1	6.5	0.7

表12. 過去1年の決まった相手の人数とセックスのタイプ

	n	決まった相手の人数				セックスのタイプ			
		1人	2人以上	無回答	無回答	フェラチオ	フェラチオ	クニニリングス	クニニリングス
男	18-24歳	102	83.3	15.7	1.0	95.1 (2.9)	80.4 (3.9)	83.3 (2.9)	5.9 (2.9)
	25-34歳	239	93.7	5.9	0.4	94.1 (2.1)	73.6 (5.9)	82.8 (2.9)	5.0 (3.3)
	35-44歳	345	96.8	3.2	0.0	93.6 (2.9)	67.0 (6.1)	74.2 (3.2)	4.3 (4.6)
	45-54歳	424	94.6	5.4	0.0	90.1 (6.8)	50.5 (11.1)	58.7 (7.3)	6.4 (8.7)
	55歳以上	177	98.3	1.7	0.0	85.3 (9.6)	36.2 (14.7)	37.3 (11.9)	5.6 (14.1)
	小計	1287	94.6	5.2	0.2	91.5 (5.0)	59.6 (8.7)	66.4 (5.7)	5.4 (6.9)
女	18-24歳	102	93.1	6.9	0.0	96.1 (1.0)	77.5 (2.0)	78.4 (2.0)	9.8 (1.0)
	25-34歳	321	96.0	3.7	0.3	94.7 (3.1)	75.1 (3.4)	71.3 (6.2)	2.8 (4.4)
	35-44歳	348	98.9	1.1	0.0	90.5 (7.2)	58.9 (7.5)	64.7 (10.6)	7.5 (10.3)
	45-54歳	361	99.4	0.6	0.0	86.7 (8.9)	44.6 (8.9)	46.0 (12.5)	8.0 (12.2)
	55歳以上	143	98.6	0.7	0.7	79.7 (9.8)	25.2 (11.2)	28.7 (14.0)	4.2 (16.1)
	小計	1275	97.8	2.0	0.2	89.7 (6.4)	56.6 (6.8)	58.1 (9.7)	6.3 (9.3)

表13. 過去1年の不定期の相手の人数とセックスのタイプ

	n	不定期の相手の人数				セックスのタイプ				
		1人	2人以上	無回答	無回答	フェラチオ	フェラチオ	クニニリングス	クニニリングス	肛門性交
男	150	38.0	57.3	4.7		92.0 (2.0)	70.7 (5.3)	76.0 (3.3)	8.0 (2.7)	
女	46	54.3	41.4	4.3		93.5 (2.2)	65.2 (2.2)	63.0 (2.2)	8.7	2.2

表14. 過去1年の金銭の授受を介したセックスの相手の人数とセックスのタイプ

	n	相手の人数				セックスのタイプ				
		1人	2人以上	無回答	無回答	フェラチオ	フェラチオ	クニニリングス	クニニリングス	肛門性交
男	153	32.7	64.0	3.3		78.4 (0.7)	81.7 (3.9)	63.4 (1.3)	6.5 (2.0)	
女	5	40.0	60.0	0.0		80.0 (20.0)	60.0 (20.0)	60.0 (20.0)	20.0	20.0

表15. 過去1年間の膈性交時にコンドームをあまり使用しなかった人の割合

相手のタイプ	男		女		
	人数	あまり使 用せず* (無回 答)	人数	あまり使 用せず (無回答)	
決まった相手	18-24歳	97	45.3 (3.0)	98	32.7 (2.1)
	25-34歳	225	46.2 (1.4)	304	45.7 (2.3)
	35-44歳	323	51.4 (3.7)	315	45.6 (3.2)
	45-54歳	382	53.4 (3.4)	313	56.5 (3.2)
	55歳以上	151	62.3 (2.0)	114	75.4 (2.6)
	小計	1178	51.9 (2.8)	1144	50.5 (2.8)
不定期の相手	138	48.5 (2.2)	43	55.8 (2.4)	
金銭の授受を介した相手	120	15.9 (2.6)	4	25.0 (25.0)	

*「コンドームを一度も使用しなかった」+「使用しない方が多かった」

表16. 過去1年間のフェラチオ時にコンドームをあまり使用しなかった人の割合

相手のタイプ	男		女		
	人数	あまり使 用せず* (無回 答)	人数	あまり使 用せず (無回答)	
決まった相手	18-24歳	82	86.6 (4.9)	79	78.5 (1.3)
	25-34歳	176	85.3 (1.8)	241	77.2 (0.8)
	35-44歳	231	78.2 (5.7)	205	64.9 (3.4)
	45-54歳	214	73.3 (2.8)	161	62.8 (3.8)
	55歳以上	64	79.8 (3.0)	36	75.0 (8.3)
	小計	767	79.5 (3.7)	722	70.5 (2.7)
不定期の相手	106	81.2 (2.8)	30	86.7 (3.4)	
金銭の授受を介した相手	125	47.2 (4.0)	3	100.0 (0.0)	

*「コンドームを一度も使用しなかった」+「使用しない方が多かった」

表17. これまでのセックス経験人数

	年齢	経験人数				
		1人	2-4人	5人以上	無回答	
男	18-24歳	145	16.6	37.3	43.5	2.8
	25-34歳	323	13.9	30.9	52.6	2.5
	35-44歳	414	11.6	28.9	57.2	2.2
	45-54歳	527	15.6	34.7	45.5	4.2
	55歳以上	242	28.9	36.0	30.2	5.0
女	18-24歳	132	25.8	32.6	37.9	3.8
	25-34歳	368	23.1	46.5	27.4	3.0
	35-44歳	410	39.3	41.5	14.9	4.1
	45-54歳	503	60.8	28.0	4.6	6.6
	55歳以上	257	68.1	17.2	1.9	12.8

表18. ピルに関する回答結果

質問	回答 (%)	男	女	合計
ピルはエイズの予防になるか (n=3562)	正答	70.7	58.9	64.7
	誤答	2.4	5.0	3.7
	わからない	18.4	27.5	23.0
	無回答	8.5	8.6	8.5
ピルはSTDの予防になるか (n=3562)	正答	68.9	57.7	63.2
	誤答	2.1	4.8	3.5
	わからない	20.0	28.2	24.2
	無回答	9.0	9.3	9.2
ピルの使用意思 (n=3562)	あり	12.9	4.8	8.8
	なし	40.5	52.8	46.7
	わからない	26.9	16.8	21.8
	自分には関係ない	15.8	20.8	18.3
ピルを使用した場合のコンドーム使用 (n=314、使用意思のある人のみ)	不変	39.0	45.3	40.8
	減らす	43.0	31.4	39.8
	わからない	15.4	19.8	16.6
	無回答	2.6	3.5	2.9

表19. 一番最近の性交時にコンドームを使用した人の使用目的（複数回答）

			避妊	STD予防	エイズ予防	その他	無回答
男	18-24歳	66	95.5	22.7	25.8	1.5	0.0
	25-34歳	120	91.7	21.7	20.0	1.7	0.0
	35-44歳	150	94.7	10.7	8.7	1.3	0.7
	45-54歳	175	94.3	14.3	13.7	2.9	1.1
	55歳以上	40	82.5	20.0	12.5	10.0	0.0
	小計	551	93.1	16.3	15.1	2.5	0.5
女	18-24歳	52	100.0	13.5	19.2	0.0	0.0
	25-34歳	123	99.2	8.1	5.7	0.8	0.0
	35-44歳	156	99.4	3.8	1.3	0.6	0.0
	45-54歳	96	100.0	4.2	4.2	1.0	0.0
	55歳以上	12	58.4	0.0	0.0	33.3	8.3
	小計	439	98.4	6.2	5.2	1.6	0.2

表20. 未婚の男性がセックスをすることへの態度

	人数	構わない	どちらかと言えばかまわれない	どちらかと言えればよくない	よくない	わからない	無回答
男	18-24歳	216	88.9	4.2	1.9	1.4	2.3
	25-34歳	345	82.4	8.1	0.9	2.1	4.6
	35-44歳	420	78.8	1.4	3.3	2.6	2.4
	45-54歳	535	56.5	17.8	9.7	6.5	5.4
	55歳以上	246	35.8	17.1	18.3	16.3	4.5
女	18-24歳	205	81.5	10.7	2.0	3.0	2.0
	25-34歳	402	79.1	13.2	4.0	1.5	1.7
	35-44歳	419	58.4	20.0	11.0	5.2	2.9
	45-54歳	510	28.4	26.1	21.0	13.9	5.7
	55歳以上	264	17.4	13.3	18.6	25.7	12.5

*構わない=「全くかまわない」+「かまわない」 よくない=「よくない」+「絶対によくない」

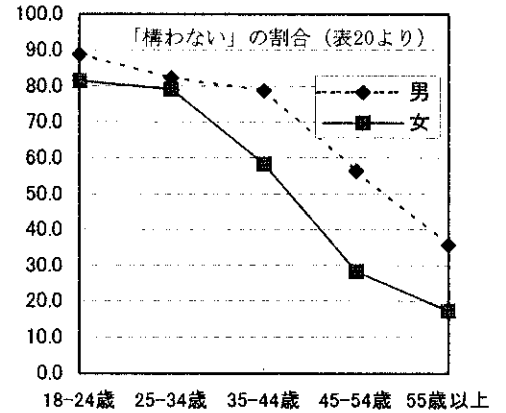


表21. 未婚の女性がセックスをすることへの態度

	人数	構わない	どちらかと言えればかまわれない	どちらかと言えればよくない	よくない	わからない	無回答
男	18-24歳	216	82.4	8.3	3.2	2.8	1.9
	25-34歳	345	76.2	10.4	3.8	2.6	5.2
	35-44歳	420	65.4	14.8	8.8	6.4	2.6
	45-54歳	535	42.7	15.9	16.6	15.7	4.5
	55歳以上	246	26.0	15.0	18.7	29.6	2.8
女	18-24歳	205	76.6	13.2	2.9	4.4	2.0
	25-34歳	402	74.6	13.7	6.5	2.7	1.7
	35-44歳	419	51.8	19.6	14.6	7.6	2.9
	45-54歳	510	19.8	20.2	26.3	24.2	4.3
	55歳以上	264	11.3	10.2	18.6	39.4	9.1

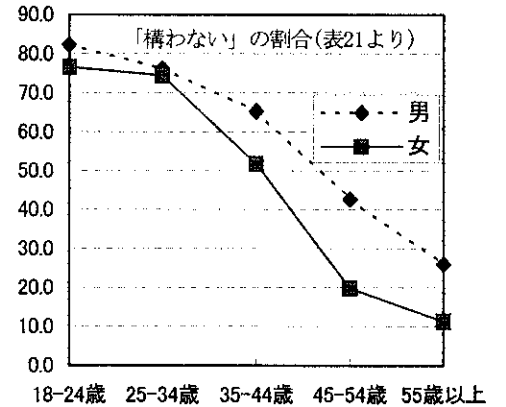


表22. 結婚している男性が妻以外とセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと言えればかまわれない	どちらかと言えればよくない	よくない	わからない	無回答
男	18-24歳	216	12.9	9.3	26.4	47.2	3.2
	25-34歳	345	12.7	13.0	25.5	42.1	4.1
	35-44歳	420	13.8	15.7	29.5	33.8	4.5
	45-54歳	535	9.8	14.2	28.0	38.4	4.9
	55歳以上	246	7.7	7.7	23.6	48.8	3.7
女	18-24歳	205	5.3	4.4	14.6	71.7	2.0
	25-34歳	402	3.2	4.0	22.4	66.4	2.7
	35-44歳	419	3.3	5.5	23.2	63.7	1.9
	45-54歳	510	3.2	3.1	17.3	69.2	2.2
	55歳以上	264	2.2	1.1	12.5	68.2	4.9

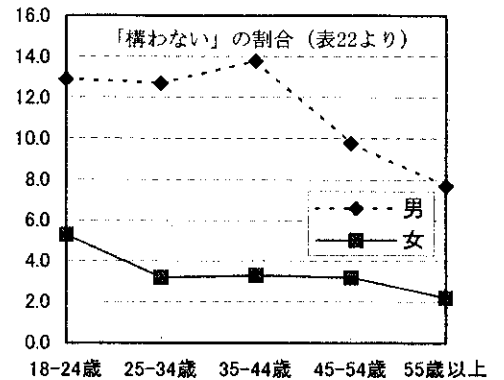


表23. 結婚している女性が夫以外をセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからな い	無回答
男							
18-24歳	216	9.8	6.5	19.9	59.7	2.8	1.4
25-34歳	345	10.1	6.4	24.6	52.2	3.8	2.9
35-44歳	420	7.9	7.4	25.0	53.8	4.0	1.9
45-54歳	535	5.8	6.9	22.4	56.3	4.1	4.5
55歳以上	246	5.3	2.4	19.1	62.6	2.4	8.1
女							
18-24歳	205	4.4	3.4	16.1	72.7	2.0	1.5
25-34歳	402	3.0	3.2	19.7	70.9	2.5	0.7
35-44歳	419	2.6	4.5	20.8	67.0	2.1	2.9
45-54歳	510	1.8	2.2	14.1	74.7	2.2	5.1
55歳以上	264	1.6	1.5	8.3	73.5	4.5	10.6

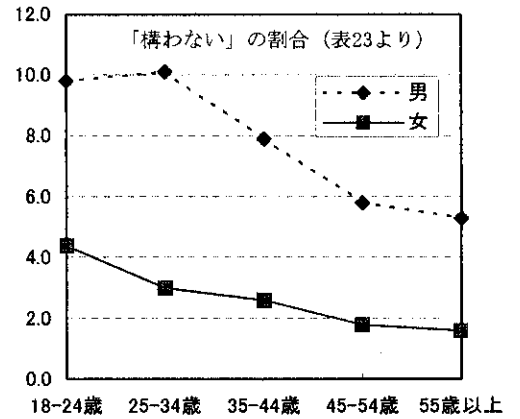
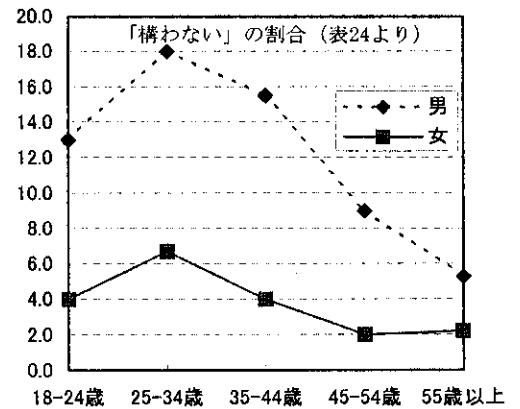


表24. 恋人のいる男性が恋人以外の女性とセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからな い	無回答
男							
18-24歳	216	13.0	11.1	23.6	49.0	2.3	0.9
25-34歳	345	18.0	14.2	26.7	34.8	4.1	2.3
35-44歳	420	15.5	14.3	32.9	31.4	4.5	1.4
45-54歳	535	9.0	12.1	22.6	45.8	5.8	4.7
55歳以上	246	5.3	7.3	22.0	53.3	3.7	8.5
女							
18-24歳	205	4.0	6.8	19.5	67.3	1.5	1.0
25-34歳	402	6.7	8.0	27.6	53.5	3.5	0.7
35-44歳	419	4.0	6.7	29.4	53.0	3.8	3.1
45-54歳	510	2.0	3.3	19.4	66.9	3.3	5.1
55歳以上	264	2.2	2.7	10.6	66.3	7.6	10.6



*構わない=「全くかまわない」+「かまわない」 よくない=「よくない」+「絶対によくない」

表25. 恋人のいる女性が恋人以外の男性とセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからな い	無回答
男							
18-24歳	216	9.7	9.3	19.0	57.8	2.3	1.9
25-34歳	345	15.7	10.7	24.6	41.2	5.5	2.3
35-44歳	420	12.6	11.2	30.2	38.1	5.2	2.6
45-54歳	535	7.8	8.2	20.9	51.9	5.8	5.2
55歳以上	246	4.1	4.1	21.1	58.1	3.3	9.3
女							
18-24歳	205	4.8	6.8	19.5	66.3	1.5	1.0
25-34歳	402	6.5	8.0	27.1	54.0	3.7	0.7
35-44歳	419	3.8	5.7	28.9	53.5	4.5	3.6
45-54歳	510	1.6	2.9	17.3	68.0	4.1	6.1
55歳以上	264	2.6	1.9	8.7	66.7	7.6	12.5

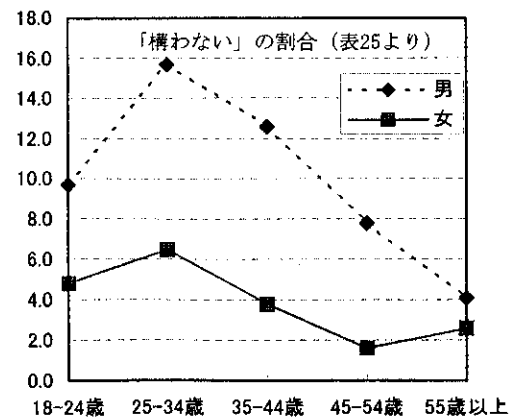


表26. 男性同士がセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからな い	無回答
男							
18-24歳	216	13.9	8.8	5.1	55.0	15.3	1.9
25-34歳	345	11.9	6.7	9.6	54.2	15.4	2.3
35-44歳	420	12.6	7.9	12.1	49.1	17.1	1.2
45-54歳	535	4.7	6.5	6.9	60.7	16.6	4.5
55歳以上	246	2.4	4.5	2.4	70.4	11.8	8.5
女							
18-24歳	205	28.7	19.0	8.8	25.8	16.6	1.0
25-34歳	402	16.1	11.4	15.2	36.8	19.7	0.7
35-44歳	419	10.3	14.3	10.7	41.0	21.2	2.4
45-54歳	510	4.9	6.9	12.9	50.4	20.2	4.7
55歳以上	264	4.2	3.0	5.7	54.5	22.0	10.6

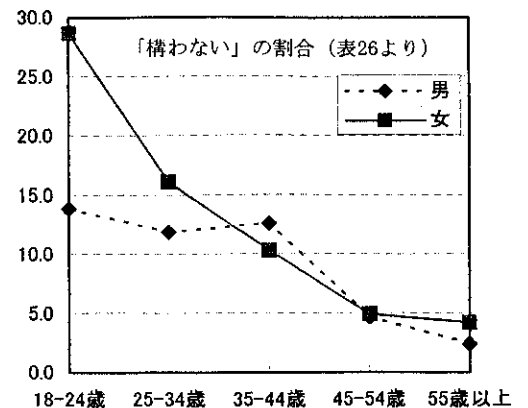


表27. 女性同士がセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからない	無回答
男							
18-24歳	216	20.8	12.0	8.3	42.1	15.3	1.4
25-34歳	345	16.8	13.0	10.4	40.3	16.2	3.2
35-44歳	420	16.4	11.7	16.0	35.4	19.0	1.4
45-54歳	535	6.9	7.3	9.9	52.1	17.8	6.0
55歳以上	246	2.4	6.9	4.9	63.0	14.2	8.5
女							
18-24歳	205	28.3	20.0	6.3	27.3	16.1	2.0
25-34歳	402	16.1	12.2	14.7	35.1	20.1	1.7
35-44歳	419	10.0	14.3	12.2	39.6	20.8	3.1
45-54歳	510	4.9	7.5	12.4	50.0	19.6	5.7
55歳以上	264	4.2	2.7	6.1	54.2	20.5	12.5

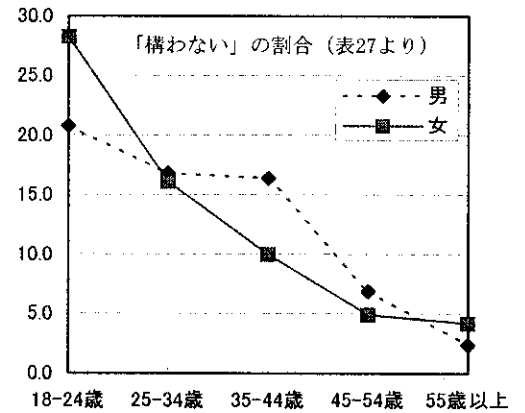
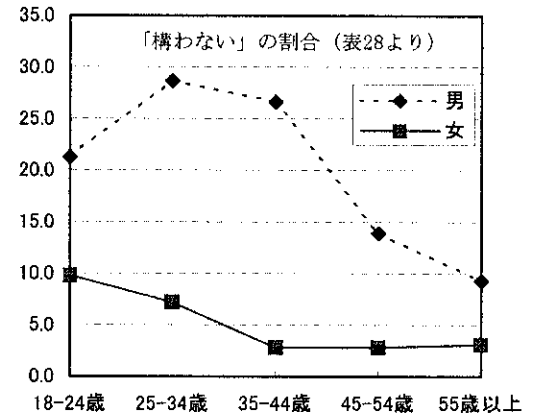


表28. お金を払ってセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからない	無回答
男							
18-24歳	216	21.3	14.4	11.1	45.8	6.0	1.4
25-34歳	345	28.7	15.7	18.3	28.1	6.7	2.6
35-44歳	420	26.7	18.6	20.5	27.2	6.0	1.2
45-54歳	535	13.9	15.4	20.9	37.5	7.9	4.3
55歳以上	246	9.3	11.0	13.4	50.8	6.1	9.3
女							
18-24歳	205	9.8	9.8	9.8	67.3	2.4	1.0
25-34歳	402	7.2	5.7	10.4	73.4	3.5	0.7
35-44歳	419	2.8	4.8	11.7	72.6	5.3	2.9
45-54歳	510	2.8	3.3	7.1	76.9	5.7	4.3
55歳以上	264	3.1	1.5	6.1	70.8	7.2	11.4



*構わない = 「全くかまわない」 + 「かまわない」 よくない = 「よくない」 + 「絶対によくない」

表29. お金を貰ってセックスをすること

	人数	構わない	どちらかと 言えばかま わない	どちらかと 言えばよく ない	よくない	わからない	無回答
男							
18-24歳	216	17.2	13.0	11.6	50.4	6.5	1.4
25-34歳	345	22.0	13.6	18.0	38.6	5.5	2.3
35-44歳	420	16.4	13.8	22.6	38.8	6.9	1.4
45-54歳	535	9.0	8.6	19.3	50.4	8.6	4.1
55歳以上	246	6.9	6.9	11.8	58.5	7.3	8.5
女							
18-24歳	205	7.8	9.8	10.2	68.8	2.4	1.0
25-34歳	402	4.4	3.0	10.0	78.6	3.2	0.7
35-44歳	419	1.4	3.3	7.9	80.9	4.1	2.4
45-54歳	510	1.4	1.6	4.9	82.6	5.3	4.3
55歳以上	264	2.6	1.9	4.2	74.2	6.8	10.2

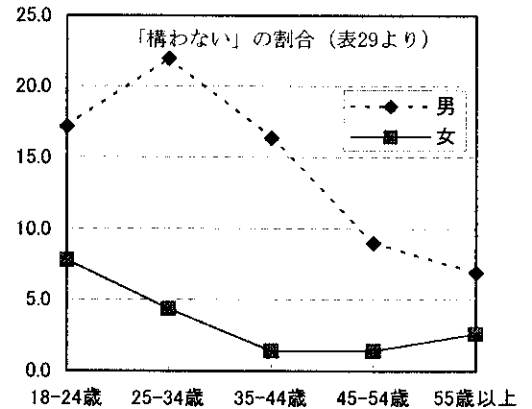


表 2. 性行動の国際比較

		ベルギー 1993年	フィンラ ンド 1992年	フランス 1992年	イギリス 1990年	オランダ 1989年	ノル ウェー 1992年	スペイン 1990年	米国 1992年	日本 1999年
過去1年間に5人以上の相手と性交 を持った人	男	3.2	7.0	2.0	2.0*	NA	3.6	6.6	5.1#	4.6
	女	0.5	3.3	0.4	0.4*	NA	1.5	3.2	1.7#	0.8
過去1年間に週2回以上セックスし た人	男	NA	45.0	53.0	28.0	43.0	NA	NA	39.5	9.8
	女	NA	40.0	50.0	28.0	47.0	NA	NA	36.7	9.0
過去1年間に売買春を経験した男性		NA	NA	1.1	0.6	2.8	1.8	11.0	0.3	13.6
これまで (lifetime) の同性との性 的接触の経験	男	6.1	4.9	4.3	4.4	13.4	5.2	7.3	5.1	1.5
	女	0.6	2.4	5.8	2.7	4.7	3.8	4.2	4.4	1.8

*比較は、年齢18-49歳、ただし、*は16-44歳、#は18-59歳

若者の HIV/STD 関連知識・性行動・性意識に関する研究

- 代表研究者：木原 雅子 カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究所
研究者：木原 正博 神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第 3 科
天野 恵子 国立大学保健管理施設協議会エイズ特別委員会
(東京水産大学保健管理センター)
中畝 菜穂子 大学入試センター
木村 博和 横浜市立大学公衆衛生学教室
市川 誠一 神奈川県立衛生短期大学衛生技術科公衆衛生学研究室
大屋 日登美 神奈川県立衛生短期大学衛生技術科公衆衛生学研究室
落合 加津子 神奈川県立衛生短期大学衛生看護科
山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所環境医学部門国際社会環境分野
内野 英幸 長野県大町保健所
研究協力者：(国立大学保健管理施設協議会エイズ特別委員会委員)
三浦 幸雄 東北大学保健管理センター
張谷 秀章 茨城大学保健管理センター
吉崎 和彦 大阪大学健康体育部
山本 和彦 九州芸術工科大学保健管理センター
石井 伸子 長崎大学保健管理センター
研究顧問：S.C. Kippax National Center in HIV Social Research (Sydney, Australia)

研究要旨

若者の HIV/STD に関する知識レベル・性意識・リスク行動の程度・セクシャルネットワークの実態を把握し、その集団に適した効果的な予防対策に資する情報を得ることを目的に、全国の国立大学生を対象に無記名自記式アンケート調査を実施した(参加校 30/96、回収数 13,645 人、回収率 57.5%)。本年度は主に性別の分析を行い以下の点が明らかとなった。(1)性モラル：性行動の背景となる性規範(未成年者のセックス、既婚者の不倫、恋人の不貞、売買春など)では、全ての項目で女性に比べ男性の方が規範意識が低い。(2)性行動：性経験率は1年生で約20%、4年生で約70%であり、半数近い学生が大学時代に性生活を開始していることが示された。性経験者の70-90%が決まった相手を持ち、不定期の相手がいる人は10-20%であった。「不定期の相手との性関係」「金銭を介した性関係」「セックスのパートナー数」「同時に複数の相手との性関係」いずれも、女性に比べ男性の方が高い割合であった。(3)STD罹患状況：過去1年間のSTD罹患状況は、男子学生が0.8%、女子学生が1.6%で女子学生の方が罹患率が高かったが、女性STD罹患者の56%が過去1年のセックスパートナーな決まった相手が一人だけであり、彼女たち全員が特に活発な性生活を送っているわけではない可能性が示唆された。(4)コンドームの使用状況：一番最近のセックス時に約70%の学生がコンドームを使用していたが、使用目的は避妊目的が9割を越え、不定期の相手の場合のコンドーム使用率は定期的相手の場合より約10%も低く、また、相手の数が多い人ほどコンドーム使用率が低いことが明らかとなり、現時点における大学生のSTD/HIV予防意識の希薄さが明らかとなった。以上、わが国の国立大学生の現時点における性行動・性意識の特徴が明らかとなった。今後は、私立大学、高校生など他の若者へと調査を拡大し、また、国際比較研究を実施する予定である。

調査の背景・目的およびこれまでの調査の流れ

HIV/STD 関連の性行動研究は、行動変容につながる予防対策の開発、あるいは流行の動向予測の上で極めて重要であり、先進国および数多くの途上国において急速に研究が進展してきた。通常、性行動が HIV 感染率 (prevalence) に反映されるまでには数年の遅れがあると言われ、特に、わが国のように、現在の HIV 流行がまだ比較的低いレベルにある国においては、HIV 感染率だけから潜在的な HIV 感染拡大の兆候を捉えるには限界がある。したがって、今後の HIV の感染拡大を防止するためには、HIV の血清疫学研究だけでなく、質の高い行動調査を実施し、感染拡大につながるリスク行動を同定し、的確な対策を講じる必要があると考えられる。

ところで、最近の厚生省エイズ動向調査¹⁾ および厚生省性感染症研究班²⁾ によると、10-20 代の若者を中心に HIV や性器クラミジア感染症および淋菌感染症の感染者数が急速に増加をはじめているが、その背景となる若者の性行動に関する調査は、わが国では極めて数が限られている。これまでに行われた若者を対象とした全国規模の性行動調査としては、(財)日本性教育協会が総理府青少年対策本部の委託を受けて、1974 年以降、約 6 年おきに実施している中学・高校・大学生を対象とした連続横断調査 (1974 年～1993 年) がほぼ唯一のものである³⁾。それによると、この 20 年間に見られた最も大きな変化として、“性の早期化”が指摘されており、高校・大学における性交経験率が年々上昇傾向を示し、特に大学生における上昇が著しい。

そこで、本行動科学グループ II では、平成 10 年度から、若者の一部を形成する大学生を対象に、HIV/STD に関する知識レベル・性意識・リスク行動の程度・セクシャルネットワーク、STD 罹患状況の実態を把握するための性行動調査を開始した。初年度である昨年度は、(1) 調査票の開発、調査方法の検討、(2) 小規模予備調査の実施、(3) 調査票、調査方法の確定、(4) 調査参加機関の募集、(5) 本調査の準備を行った。本年度は、4 月から 6 月にかけて、全国の国立大学を対象に本調査-『全国国立大学生 Sexual Health Study』-を実施したのでその結果を報告する。

方法

サンプリング方法:

全国の全ての国立大学保健管理施設 (96 大学) に調査を依頼した。調査対象者は大学 1 年生と大学 4 年生で、入学時健康診断、卒業時健康診断、医学部の場合はポリクリ前の健康診断など、ほぼ学生全員が受診すると考えられる健康診断時に調査を実施し、該当学年全員あるいは健康診断受診者全員に調査を依頼した。

調査実施時期：平成 11 年 4-6 月

調査方法: 無記名自記式アンケート調査

調査は下記のいずれかの方法で実施された。

- ①最も望ましい方法：健康診断前に (例：入学式等)、調査票を全員に配布し、各自自宅にて記入後、無記名で添付の封筒に密封し、健康診断時に提出する。
- ②上記が不可能な場合：健康診断時に、健康診断受診者全員に調査票を配布し、各自自宅にて記入後、無記名で添付の封筒に密封し、検査結果を受け取りに来た時に提出する。

定期検診を受診しなかった学生及び、提出を忘れた学生は、後日保健管理センターに調査票を持参するよう指示した。また、回収率の向上を図るため、調査票配布時、定期健康診断時、健診後 2 週間の 3 回に渡り、提出のための督促状を配布または掲示した。

調査票:

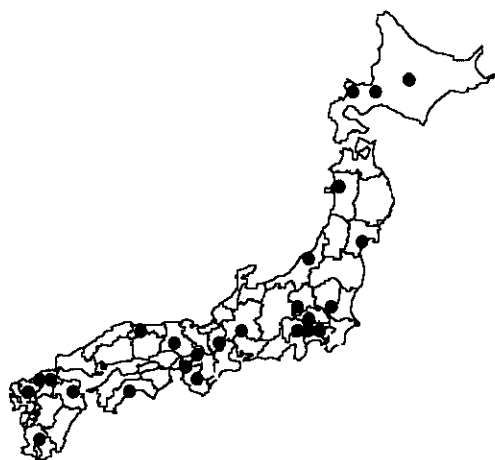
調査票開発は下記の行程で行われた。まず、これまでに本研究班で開発された国内の他の集団（一般集団、各種職業集団、STD 患者集団など）に対する調査票との共通項目を設定し（調査票の標準化）、さらに大学生という年齢およびピル解禁を考慮した調査票を作成した。諸外国のHIV 行動調査の専門家の助言を得て、追加修正を行った。次に、調査票の feasibility の検討のため、2 大学で小規模予備調査を行い、対象学生のコメントを基に再修正を加え、調査票 (MKBQ-univ1.version) を作成した。調査票の設問総数は69 問（付問あり）であり、設問項目は以下の8 部門から構成された。①性・年齢等属性に関する質問、②思春期の環境に関する質問、③HIV/STD 関連知識、HIV/STD リスク認知、④性行動（性経験全般、初交、過去1 年間の決まった相手と性関係、過去1 年間の不定期の相手との性関係、一番最近のセックス、）⑤コンドームに対する考え方、⑥ピルに関する知識・意識、⑦性的被害、⑧性モラル、⑨HIV/STD/sex についての情報源・教育。

統計的分析方法: データの集計は、表集計ソフト“秀吉 for Windows”（社会情報サービス、東京）用いて行い、統計学的検定には、“HALBAU(High quality Analysis libraries for Business and Academic Users) for Windows”（統計数理研究所、東京）によった。2 群間の差の検定には、カイ二乗検定を用いた。

結果

調査参加大学:

全国国立大学保健管理施設（96 国立大学）へ調査を依頼し、30 大学（31.3%）が調査に参加した。参加校の地域分布を見ると、北海道から九州まで比較的偏りなく分布していた。



参加大学リスト

北海道教育大学、北海道大学、旭川医科大学、小樽商科大学、東北大学、秋田大学、長岡技術科学大学、宇都宮大学、茨城大学、東京水産大学、東京医科歯科大学、横浜国立大学、山梨医科大学、岐阜大学、和歌山大学、滋賀医科大学、大阪教育大学、京都工芸繊維大学、神戸大学、鳥取大学、高知医科大学、九州芸術工科大学、福岡教育大学、大分大学、佐賀医科大学、鹿屋体育大学

調査参加者：（総数：13,645 人）

調査に参加した学生総数は13,645 人であった。性・年齢が未記入の学生30 人を除くと、性別では、男性の方がやや多く、男性が7,749 人（56.9%）、女性が5,866 人（43.1%）であった。学年別

表1. 対象者の性別・学年別内訳*

		1年生	4年生	その他	計
男性	人数	5314	2168	267	7749
女性	人数	4160	1458	248	5866
計	人数	9474	3626	515	13615

*性・年齢未記入の学生30人を除外

では、1年生が多数を占め、1年生が9,474人(69.6%)、4年生が3,626人(26.6%)で、その他の学年の健康診断受診者が515人調査に参加していた。(表1)。

回収率

平均回収率は1年生では59.2%(16.4%-100%)、4年生では53.0%(17.4%-100%)と、どちらも50%を越えていた(表2)が、大学によりかなりのばらつきが見られたため、回収率といくつかの主要な性行動(性経験率、セックスの相手の数、初交年齢、不定期のセックスの相手の有無、HIV/STD 関連知識)との関係を調べた。その結果、回収率とそれらの性行動との間に相関が見られなかったため、全ての大学を解析の対象として用いた。

表2. 大学別・学年別の回収率

	1年生		4年生		
	人数	回収率	人数	回収率	
北海道教育大(旭川)	57.5	41.5	山梨医科大	100	75.7
北海道教育大(函館)	67.1	31.0	岐阜大	50.8	
北海道教育大(札幌)	16.4	100	和歌山大		98.1
北海道教育大(岩見沢)	36.3	17.4	滋賀医科大	55.8	
北海道大	44.6		大阪教育大	83.9	
旭川医科大	91.0	94.9	京都工芸繊維大	49.8	
小樽商科大	72.2		神戸大	93.8	
東北大	24.7		鳥取大	42.0	15.2
秋田大	32.5		高知医科大	32.2	
長岡技術大	97.9	51.6	九州芸術工科大	92.6	22.1
宇都宮大		73.6	福岡教育大	84.6	57.7
茨城大(工)		47.7	大分大	65.0	51.3
茨城大(農)		32.6	佐賀医科大	74.7	59.4
東京水産大	77.4	48.7	鹿屋体育大	90.6	
横浜国立大	51.4		平均回収率	59.2	53.0

調査結果

*以下、本年度は、性別の分析を中心に記述した。

1. 思春期の環境

性行動の背景である思春期の環境について、性的な関係(交際)に対する家庭の厳しさを男女で比較したところ、1年生、4年生とも男性に比べ女性の方が“大変厳しかった”、“厳しかった”と回答した人の割合が統計的に有意に高く、性関係に関するしつけの男女差が示唆された(表3)

表3. 家庭の厳しさを男女比較

	1年生			4年生		
	人数	男性	女性	人数	男性	女性
全体	9474	56.1	43.9	3626	59.8	40.2
大変厳しかった	351	23.1	76.9	189	29.1	70.9
やや厳しかった	1579	36.1	63.9	705	36.9	63.1
やや寛大であった	2278	55.8	44.2	1000	62.2	37.8
寛大であった	1780	71.1	28.9	815	74.5	25.5
わからない	3424	61.0	39.0	886	67.5	32.5
男女比較						
χ^2 値		612.6			327.6	
P値		<0.0001			<0.0001	

2. 性モラル(表4)

次に、大学生の性モラル

を男女で比較した。まず、高校生のセックスに対する容認度は男性では約75%、女性では約65%で、既婚者の不倫の容認度は男性で約20%で、女性が約8%、恋人の不貞に対する容認度は男性が約22%で、女性が約9%、売買春の容認度は男性が約32%で、女性が約12%と全ての項目で女性に比べ男性の方が高い容認度を示していた。また、既婚者の不倫や恋人の不貞に対しては、女性の場合は男性にも女性にも同じ態度を示すのに対し、男性の場合は同じ性モラルに対し男女

の容認度がやや異なっており（既婚者の不倫： $\chi^2=13.3$ 、 $P=0.0003$ 、恋人の不貞： $\chi^2=9.7$ 、 $P=0.0018$ ）、大学生のような若者においても男性では性の二重規範の傾向が観察された。一方、性モラルではないが、同性間性行為に対する容認度はこれとは逆で、女性の方が極めて高い容認度を示し、男性の約35%に対し、女性では約51%が同性間性交を“かまわない”と回答しており、性モラルおよび性的指向に対する男女の態度の違いが明らかとなった。

表4. 性モラル(容認している人の割合)

	男性	女性	男女の比較	
	n=7755	n=5870	χ^2 値	P値
男子高校生のセックス	75.1	66.3	130.1	<0.0001
女性高校生のセックス	74.4	64.8	145.9	<0.0001
既婚男性の不倫	21.9	8.7	429.9	<0.0001
既婚女性の不倫	19.6	8.3	335.6	<0.0001
恋人のいる男性の不貞	23.1	9.4	436.4	<0.0001
恋人のいる女性の不貞	21.0	9.2	344.3	<0.0001
お金を払ったセックス	34.2	13.8	446.3	<0.0001
お金をもらったセックス	31.2	11.0	174.8	<0.0001
男性同性間性交	33.8	51.8	509.0	<0.0001
女性同性間性交	39.5	51.0	780.2	<0.0001

3. 性行動

(1)性経験率 (表5)

大学1年生と大学4年生のセックスの経験率を調査した結果、入学時の1年生で、男女とも約20%の学生がセックスの経験を有していた。一方、4年生では60-70%の学生がセックスの経験があった。このことは、大学時代に約半数の学生が性生活を開始することを意味している。

表5. セックスの経験のある人の割合

	1年生		4年生	
	%	人数	%	人数
男性	24.2	1266/5229	63.9	1349/2111
女性	21.7	889/4096	73.6	1053/1431

(2)セックスパートナー

◆過去1年間のパートナーのタイプ (表6)

セックス経験のある学生における過去1年のセックスパートナーのタイプを調べた。まず、“決まった相手”のいる学生の割合は、全体では約65%-90%であった。学年別では1年生より4年生に“決まった相手”を持つ人が多く、性別では男性に比べ女性の方が決まった相手を持っている人の割合が高かった。次に、“不定期の相手”とセックスをした人の割合を見ると、全体で約10%-20%の学生が“不定期の相手”を有していたが、学年別では、先ほど同様学年が上がるほど“不定期の相手”の割合が高い傾向が見られ、性別では、逆に女性に比べ男性の方が“不定期の相手”を持つ人の割合が高かった。さらに、金銭を介したセックスの相手を持つ人の割合は、全体では0.2-2.1%の学生が金銭を介したセックスの経験を持っていたが、性別では女性に比べ男性の方が金銭を介したセックスの経験率が高かった。

表6. セックスパートナーのタイプ
(セックス経験者で過去1年に下記の相手を持つ人の割合)

		女子			男子			男女の比較	
		1年生	4年生	計	1年生	4年生	計	χ^2 値	P値
決まった相手	%	80.9	90.0	85.8	66.2	71.2	68.7	178.4	<0.0001
	人	722/892	940/1045	1662/1937	839/1267	959/1346	1795/2613		
不定期の相手	%	10.9	16.3	13.8	15.7	20.3	18.1	14.3	0.0002
	人	93/856	162/992	255/1848	191/1218	262/1288	453/2506		
金銭を介した相手	%	0.4	0.2	0.3	1.4	2.6	2.1	26.4	<0.0001
	人	4/892	2/1045	6/1937	18/1267	36/1346	54/2613		

◆セックスパートナーの数 (表7)

これまでのセックスパートナーの累積数について調べてみると、これまでの相手が4人以上の学生の割合は、入学時点の1年生女子で既に8.7%、男子で13.3%であったが、4年生になると、女子で20.6%、男子では27.1%と上昇し、男女では女性に比べ男性の方が相手の数が多かった。

表7. これまでのセックスのパートナーの数

	人数	1人	2人	3人	4人以上
		%	%	%	%
1年女子	887	65.2	18.2	8.0	8.7
1年男子	1244	57.2	19.3	10.2	13.3
4年女子	1042	44.0	22.5	13.1	20.6
4年男子	1327	36.5	21.3	15.1	27.1

また、これまでに同時期に複数の相手と性関係を持ったことのある学生の割合は、学年別では1年生では約10%、4年生では約20%で、性別では女性に比べ男性の方が同時に複数の相手と性関係を持つ人の割合が高いことが明らかとなった (表8)。

表8. 性関係の同時進行の割合 (これまでに同時期に複数の相手と性関係を持った人の割合)

	1年生		4年生	
	%	人数	%	人数
女性	8.0	72/903	18.7	196/1050
男性	12.6	161/1275	21.7	296/1361

(3)コンドーム使用状況

表9. 一番最近のセックス時のコンドーム使用率

	1年生		4年生	
	%	人数	%	人数
女性	67.1	573/854	73.1	716/980
男性	72.5	874/1205	77.5	969/1251

大学生のコンドーム使用の現状を捉えるために、一番最近のセックス時のコンドーム使用状況調べた。一番最近のセックス時のコンドーム使用率は学年、性別にかかわらず約70%であった (表9)。その際のコンドームの使用

目的で、STD/HIV 予防を目的としているものは、“決まった相手”の場合でも約40%であり、相手にかかわらず90%以上は避妊を目的に使用されていた (表10)。そこで、実際の相手別のコンドーム使用率を見てみると (表11)、決まった相手の場合の使用率が73.8%であるのに対し、不規則の相手では、それより10%程度低い62.8%であった。また、セックスパートナーの数とコンドーム使用率との関係を見ると (表12)、パートナーが多い人ほどコンドーム使用率が低いことが明らかとなった。したがって、現時点における大学生のSTD/HIV 予防意識はかなり低い可能性が示唆された。

表10. 相手別のコンドーム使用目的

	決まった相手 n=3120	不規則の相手 n=272	全体 n=3497
避妊	97.9	91.2	96.1
STD予防	20.4	43.4	22.4
HIV予防	16.8	38.6	18.5
その他	0.6	1.8	1.1

表11. 相手別のコンドーム使用率

(一番最近のセックス時)	使用率(%)
決まった相手 n=4123	73.8
不規則の相手 n=384	62.8
相手別比較	χ^2 値 21.6
	P値 <0.0001

表12. 相手の数とコンドーム使用率

相手の数(過去1年)	%	人数	χ^2 値	P値
1人	74.4	2126/2857	43.9	<0.0001
2人	68.8	253/368		
3人	57.0	65/114		
4人	56.5	26/46		
5人以上	43.6	17/39		

次に、セックスの経験のある学生に、「コンドーム使用は誰が決めるか」を尋ねた。それによると、男子学生の58%が自ら使用を決めるのに対し、女性の場合は26.7%が女性によって決められており、コンドーム使用決定の主導権が男性側にあることが示された (表13)。また、コンドーム使用に対する考え方を調べてみると (表14)、「コンドーム使用は快感を損なう」「コンドーム使用はセックスの雰囲気壊す」「相手から言われた時以外は使用したくない」などコンドーム使用に対し否定的な態度を持つ人の割合は、女性に比べ男性側に著しく多く、一方、女性では「コンドームを買うのは恥ずかしい」「コンドーム使用は自分からは言い出せない」などの

理由でコンドーム使用を躊躇する人の割合が高いことが明らかになった。

表13. コンドーム使用の決定は誰がするか

	女性 n=2075	男性 n=2753
自分自身	26.7	58.0
相手	15.2	5.8
二人で	55.4	34.5
コンドームは使わない	2.8	1.7

表14. コンドームに対する考え方
(同意する人の割合)

	女性 n=2106	男性 n=2796	男女比較 χ^2 値	P値
快感が損なわれる	38.1	61.3	260.1	<0.0001
セックスの雰囲気や壊す	15.1	18.6	10.6	0.001
相手から言われた時以外は使いたくない	8.3	15.2	51.1	<0.0001
買うのは恥ずかしい	59.7	37.4	241.3	<0.0001
使用を自分から言い出せない	11.6	6.2	45.7	<0.0001

(4)STD罹患状況

自己申告による過去1年間の大学生のSTD罹患の状況を調べた。(女性の場合は、カンジタなど性行為以外でも感染する可能性のあるものは除外して集計した。)それによると、セックスの経験のある学生のうち、女性では1.6%が過去1年にSTDに罹患した経験を持っており、男子の罹患歴0.8%を上回っていた(表15)。

表15. STD罹患歴(過去1年、自己申告)

	女性		男性	
	%	人数	%	人数
1年生	1.0	9/871	0.8	10/1220
4年生	2.1	22/1027	0.8	11/1308
計	1.6	31/1898	0.8	21/2528
χ^2 値*	6.01 (*男女比較)			
P値*	0.014			

次にこれらSTD罹患者の性行動を調べた。それによると、まず、セックスパートナーのタイプでは(表16)、最も多かったのが、女性では“決まった相手のみ”で59.4%であったが、男性では“決まった相手と不特定の相手の両方”を持っていた人で最も多く43.5%を占めていた。また、過去1年間のパートナーの数をみると(表17)、女性では59.4%がセックスパートナーは一人だけであったと答えている。さらに、STD罹患者のうち、決まった相手が一人だけの人の割合を調べてみると、女性では56.3%(18/32)が過去1年のセックスパートナーは決まった相手が一人だけであったが、男性ではわずか13.0%(3/23)であった。以上の結果より、男性よりも女性の方がSTD罹患率は高いものの、彼女たちの約60%は過去1年間のセックスの相手は決まった相手が1人だけであり、彼女たち全員が特に活発な性生活を送っているわけではない可能性が示唆された。したがって、今後のSTD予防教育に際し、特に若年女性に関しては、不特定多数との性行為のみをリスクと見なす現在のセーフセックスの概念を根本から考え直す必要があると考えられる。

表16. STD罹患者のパートナーのタイプ

	女性		男性	
	%	n=32	%	n=23
決まった相手のみ	59.4	19	17.3	4
不特定の相手のみ	3.1	1	13	3
定期・不特定両方	25.0	8	43.5	10
不明	12.5	4	26.1	6

表17. STD罹患者のパートナー数

過去1年の相手数	女性		男性	
	%	n=32	%	n=23
1人	59.4	19	13.0	3
2人	9.4	3	17.4	4
3人	9.4	3	8.7	2
4人	3.1	1	8.7	2
5人以上	6.3	2	13.0	3
不明	12.5	4	39.1	9

4. 経口避妊薬(ピル)に関する知識・態度

1999年6月16日にわが国でも経口避妊薬(ピル)が認可されたが、対象となった大学生の58.6%が“ピルという薬を知っている”と答え、38.2%は“名前程度は知っている”、ピルについて全く知らないと答えたのは3.2%であった。まず、ピルの使用希望率(女性:使いたい人の割合、男性:相手に使って欲しい人の割合)を調べてみると(表18)、男女とも約20%の人がピルの使用を希望していた。次に、ピルに関する知識の中で、“ピルでHIVが防げるか”というピルとHIVの関係の基本的知識の正解率を調べてみると(表19)、学年別では4年生の正解率が高く、